

ブーメランのように

平成30年11月
立川女子高等学校
カウンセラーだより裏面

昔むかし、ある男の人が道を歩いていました。その男の人は、とても嫌なことがあって、イライラしていました。すると、向こうからお釈迦様（おしゃかさま）が、何人もの人に囲まれて、こっちに歩いてくるのが見えました。お釈迦様は、たいそう皆に尊敬されている様子でした。



その人がお釈迦様だと知らない男の人は「なんだ、あいつ、偉そうに！なんで、あいつだけが、あんなに好かれるんだ。あの態度を見ていたら、余計ムカついてきたぞ。そうだ。皆の前であいつをののしってやろう。偉そうにしているも、俺が悪口を言ったら、きっと怒って俺に悪口を言い返してくるだろう。そしたらきっと、人気もなくなるに違いない」と思いました。

そこで、お釈迦様に向かって「おい、お前！何を偉そうに歩いているんだ！」と大声で言いました。お釈迦様は、優しい笑顔を浮かべて、何も話しませんでした。男はお釈迦様に馬鹿にされているように感じてしまい、更に腹を立てて、お釈迦様を更ののしりました。それでもお釈迦様は怒りませんでした。周りにいた弟子たちが腹を立てて、「あんなひどいことを言わせておいていいのですか？怒らないのですか？」とお釈迦様に聞きました。

それを聞いたお釈迦様は、弟子に向かって「もし人に何かを売ろうとして、その相手が買わなかったら、その品物は誰のものだろうか？」と聞きました。弟子は「相手が買わなかったんだから、売ろうとした者のものです。」と答えました。それを聞いていた弟子たちは「あっ！」と、思わず声をあげました。

お釈迦様は男に向かって、「今、あなたは私をひどくののしった。あなたは私に『けんか』を買って欲しかったのではないかな？でも私はけんかを買わなかった。だから、あなたが言ったひどい言葉は、全てあなたの物だということになるんだよ。」と言いました。

お釈迦様の言葉の意味を理解した男は、黙って下を向いたまま、顔を上げることが出来ませんでした。そして、自分がイライラしていたからと言って、誰かを傷つけてやろうと思った自分が、とても恥ずかしい人間だということを悟りました。お釈迦様を傷つけようとして言った悪口でしたが、結局、男は自分を傷つけてしまったのでした。

自分のイライラや不満を解消するために、他の人に八つ当たりしようとしたり、他の人を傷つけようとしたりした時、相手がそれを買ってくれれば、けんかになり、結果的には「二人とも悪い」ということになります。ですが、相手がけんかを買ってくれなかった場合、悪口はブーメランのように自分に帰ってきて、自分を傷つけてしまうということを、私たちはこのお話から学ぶことができます。



逆にけんかを売られた場合、それに乗らずに冷静に対応出来れば、傷つけられることはありません。ただ、「けんかを買わない」とは、相手の機嫌を取ることを意味するわけではありません。あくまでも冷静に対応し、相手と同じ土俵に乗らないことが「けんかを買わない」ことだと、このお話は私たちに教えてくれているような気がします。